

トルコの政治的混乱と中銀の対応

～再び海外投資家からの信頼回復に努める時間帯に～

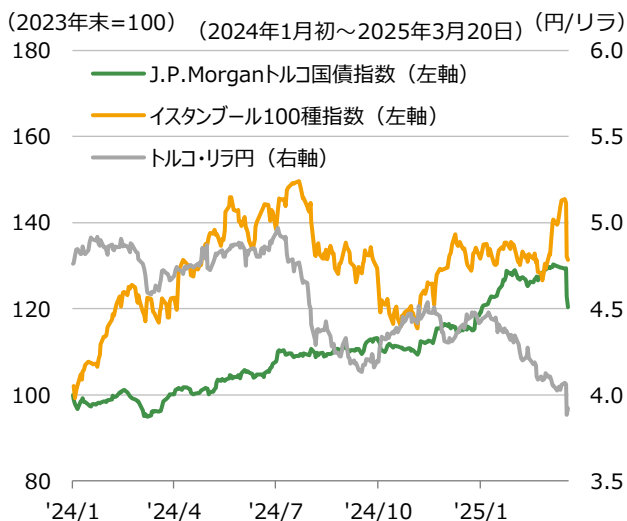
2025年3月21日

まずは為替市場の安定が重視される見込み

トルコでは3月19日（現地、以下同様）、エルドアン大統領の政敵であり次回の大統領選挙における野党の有力候補と目されていたイマモール氏（イスタンブール市長）が拘束されたことを受けて、最近の投資家寄りの経済・金融政策が後退するのではないかと懸念から、同日の金融市場はトリプル安の反応となりました。具体的には、10年国債利回りが前日比2.3%pt上昇（債券価格は下落）したほか、代表的な株価指数であるイスタンブール100種指数は同8.7%下落しました。また、トルコ・リラ円は一時前日比11%超下落する場面がありました。ただし、トルコ中銀が国内金融機関を通じてリラ買いの為替介入を実施したことで、同日は前日比4.4%安まで下落幅が縮小しました。また、翌20日にはトルコ中銀が緊急会合を開き、翌日物貸出金利を42%から46%に引き上げるなどの通貨防衛策を講じています。

2023年の大統領選挙後に、シムシェキ財務相の主導によりトルコ中銀がオーソドックスな金融政策に転換したことで、海外投資家のトルコ国債に対する評価が徐々に改善し、過去1年程度は非居住者が保有するトルコ国債の残高が顕著に増加していました。今回の政治的混乱は、トルコ国債に対する前向きな見方に冷や水を浴びせる事象と言わざるを得ません。しかし、シムシェキ財務相やトルコ中銀はインフレ抑制の妨げとなる市場の急変には適宜対応する構えです。再び海外投資家からの信頼を回復するには時間を要するかもしれませんが、まずは為替市場を安定させることで過度な懸念の払しょくに努めるとみられます。

トルコの国債・株価指数とトルコ・リラ円



※国債指数と株価指数は現地通貨建て

（出所）ブルームバーグより大和アセット作成

非居住者のトルコ国債保有とトルコの外貨準備



※いずれも週次データ

（出所）トルコ中央銀行、ブルームバーグ

当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書（交付目論見書）」の内容を必ずご確認ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。

大和アセットマネジメント

Daiwa Asset Management